

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	N'DRI LASME GNAGNE MATHIEU
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Essays on Information and Communication Technology, Poverty, Environment, and Corruption			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	柿 中 真 教授	印 Seal	
審査委員 Committee	市 橋 勝 教授		
審査委員 Committee	後 藤 大 策 准教授		
審査委員 Committee	高 橋 新 吾 准教授		
審査委員 Committee	Ching-Yang Lin (国際大学大学院・准教授)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本博士学位論文では情報通信技術 (ICT) が社会経済の持続的発展にどのように関わっているのかについて議論している。開発途上国において、ICT の役割を分析することは学術的に重要性の高い課題であり、また、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に資する情報化政策的を計画・実施する上でも非常に有意義な課題であると考えられる。当該生は、開発経済学、国際経済学及び情報通信政策の分野における先行研究を踏まえた上で、ICT に関する3つの重要なトピックに特定し、計量経済学の分析手法を応用して研究を行っている。一つ目は ICT と貧困との関係性に関する研究、2つ目は開発途上国における ICT と環境との長期的関係性に関する研究、3つ目はサブサハラ地域における ICT、汚職及び防衛費との関係性に関する研究である。それぞれの研究課題は新規性・重要性が高く、国際開発経済学の視点に立った研究結果及び研究含意を導出したことは非常に高く評価できる。本博士学位論文は5章から構成されている。</p> <p>序 章：導入 第2章：ブルキナファソにおける ICT と貧困との関係性に関する研究 第3章：開発途上国における ICT と環境との長期的関係性に関する研究 第4章：サブサハラ地域における ICT、汚職及び防衛費との関係性に関する研究 終 章：結論</p> <p>主な内容は以下のとおりである。第2章では、開発途上国であるブルキナファソにおいて、ICT の重要な一種であるモバイルマネーの貧困削減 (特に非金銭的貧困の削減) に対する効果を家計レベルのデータにマッチング手法を用いて分析・考察している。主な研究結果としては、モバイルマネーの普及が進んでいない最貧国にとって、その普及を推進する情報化政策が貧困削減に寄与するという重要な政策的含意を示している。次に、第3章では、ICT の環境に対するポジティブ・ネガティブという相反する効果が存在するという議論があることに着目して、開発途上国における ICT と環境 (CO₂) との長期的関係性について時系列分析 (panel ARDL) を応用して考察している。主な研究結果としては、開発途上国の中で、相対的低所得国では CO₂ と ICT は長期的に負の関係があるものの、相対的高所得国ではそのような関係は認められないことが示された。この結果は、低所得国にとって、ICT の環境に対する役割 (green ICT) が顕著であり、情報化政策が環境持続の意味において重要性が高いことを示唆している。さらに、第4章では、ICT、汚職及び防衛費との関係性について、サブサハラ諸国を対象に計量経済学を応用して分析を試みており、防衛費と対汚職制度の関係は ICT の普及度に依存していることが示されている。</p> <p>第2章に関しては、Impact factor 付国際学術雑誌 (N' dri, L.M., Kakinaka, M., 2020. Financial inclusion, mobile money, and individual welfare: The case of Burkina Faso. Telecommunications Policy 44, 101926) に受理・出版されている。第3章については、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿し、現在、レビュー中である。第4章については、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿する予定である。これまでの研究を踏まえ、ICT に関連する国際開発政策に関する主要政策課題を体系的に構築・分析し、重要な政策的含意を導出していることは高く評価される。以上の結果、試験委員全員一致で、申請者が博士 (学術) の学位を授与されるに十分な学識と能力を有しているものと認め、合格と判定した。</p>			